



キャンプの楽しみ！竹で炊いたご飯の味は初体験。

大湊小学校、三和小学校合同の子ども防災キャンプ

竹で「ご飯」？



7月30日、子ども防災キャンプが行われている大湊小学校におじゃましました。校庭には、大湊小、三和小の児童と保護者、大湊地区防災連合会役員、高知高专環境都市デザイン工学科の岡田准教授と学生が集まっていて、夕食が始まる場所でした。メニューはカレーです。世話役の方から

「ご飯は電気釜の他に、竹



防災学習では、いざというときにすべきことを学びました。

を利用して炊きました。どんな味が食べてみてください」と声をかけていただきました。竹で「ご飯」初めてのことで、広報委員も、子どもたちも興味津々です。大きな孟宗竹のまん中を切りぬいた上にある蓋を取ると、良い香りがする。ほかほかのご飯が炊けています。

いろいろな物が使えなくなつたときに役立つ知恵が一つ増えました。

防災学習



夕食の後は多目的ホールに移動し、「地域の大人と防災会議」と題した防災学習です。岡田准教授からは、東日本大震災から学ぶ、いざという



DIGの様子。一つの地図にみんなでわいわい書き込んでいきます。

3. 率先して避難せよ

1. 想定にとられない

2. 状況下において最善をつくせ

「避難三原則」

1. 想定にとられない

2. 状況下において最善をつくせ

3. 率先して避難せよ

き的心構えについて教えていただきました。

まず東北には、津波がきたら、てんでばらばらで良いので急いで逃げろという意味の「津波でんでんこ」という言葉があること。

そして小・中学生への防災教育の中で

を徹底してたたき込み、これを守って全員が無事避難できた「釜石の奇跡」が、子どもたちに伝えられました。



よいしょ、よいしょ。協力しながら居場所を作っている。

居場所づくり



防災学習の後は体育館に入り、今夜過ごす自分たちの居場所づくりです。友達と力を合わせてダンボールを組み立て、最低限のプライバシーを守る空間を作りました。災害などで避難したときの居場所づくりにもつながる体験です。譲り合いや助け、助けられる活動を通して、協力し合える仲間の大切さを感じたことでしょう。

続いてDIG(災害図上ゲーム)が行われました。まず地域ごとにグループを作り、地域の地図に自分の家の場所に赤シール、避難場所に青シール、危険な場所に緑シールを貼っていきます。そして南海地震を想定した避難場所までの安全な避難経路を考えさせるのです。

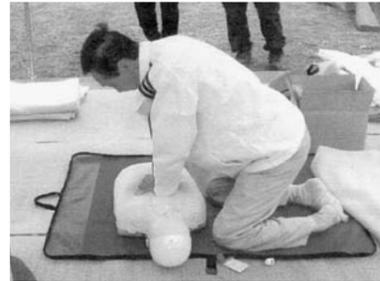
一人一人が状況を理解した上で正しい判断をし、行動する力、「自分の命は自分で守る」力につながるものです。避難三原則をいざというときに生かし、自分たちの判断で多くの命を守った釜石の小・中学生の姿から、防災学習を徹底して行う必要があると思いました。



特集「自主防災」

一人一人の命を守るために

9月4日、県下一斉に行われた避難訓練(久枝防災施設)



3月11日、東日本大震災が発生しました。想定外の激しい揺れと津波により、多くの尊い命が失われました。平和な日常が普通に繰り返されていた集落が、根こそぎなくなりました。報道される被害の様子に、あらためて地震の恐ろしさを痛感しました。

高知県にも、今後30年以内に60%以上の確率で「南海地震」が起こると予想されています。それに備え、これまでの自然災害の教訓から、一人一人が自分の命を守るために、何をすべきか、今まで以上に防災への意識を高めなければなりません。

そして、地域をよく知り、自然の怖さを体験した者が、次世代の子どもたちに命を守る知恵を伝えていく必要があります。

今回の特集では、いざというときに自分を守り、周りも助けることができる安心・安全の地域づくりのために努力されている「自主防災」取材することになりました。

まず7月末、大湊小学校で実施された一泊二日の「子ども防災キャンプ」におじゃまし、小学生と一緒に勉強しました。そして、先進的な取り組みをしている大湊地区防災連合会長 前田節夫さんと稲生西立石防災会長 前田汎章さんに話を聞かせていただきました。